

～錦江校区のコミュニティ形成へ～

コミュニティ協議会だより

平成29年10月発行 第2号

錦江校区コミュニティ協議会



語り継ぐ「加治木空襲」

8・11空襲の日・平和の集い

加治木に住む人々にとって忘れてはならない日が「8月11日」です。今から72年前、加治木の街は米軍機による激しい空爆を受け、多くの生命と財産が焼失しました。この惨劇を後世に伝え、恒久の平和を願う集会を実施しました。

今回で12回となる「8・11空襲の日・平和の集い」は、中学生を中心とした手づくり感あふれる集会になりました。



小学生による「あなたに伝えたい」の朗読発表がありました。続いて中学生が空襲体験者からの聞き取りによる調査発表を行いました。爆撃機の爆音が響く効果もあって、心に残る発表でした。この発表原稿には柁城校区の方の協力をいただきました。平和の集いの輪が、校区外にも広がることを意図しています。

合間に、加治木生活学校の皆さんのが「だご



じる」を準備しました。戦後をほうふつとさせる料理で、会場から希望者を募り食べてもらいました。

終わりに、加治木中吹奏楽部の有志の管楽器、保護者の琴の音で、平和を願って「ふるさと」を大合唱しました。平和の思いが届くといいなと思います。準備から後始末まで積極的に協力してくれた中学生には頭が下がります。これも錦江地区の伝統として伝えていくことです。

(青少年育成部)

各事業所も参加し

第9回校区体育祭開催する

10月9日、澄み渡る秋空の下、校区体育祭が開かれました。3地区の児童からお年寄りまでが、それぞれの種目に出場され、勝ちを思いながらも楽しく競技をしていただきました。結果は錦江第2地区が5連覇となりました。



特に、今回は、龍桜高校やさちかぜ等の事業所を含む多くの団体が、「ムカデ競争」や「輪回し」「玉入れ」に参加をいたしましたことが特筆されます。新しい町づくりプランにのっとり、事業所の方々も参加することから何かが生まれてくるのではないかと思います。



例年にも増して、学校、PTA、おやじの会、各団体役員の方々の温かい気持ちと汗に感謝いっぱいです。
(健康福祉部)

防災訓練

第2地区で開催

9月23日、岩原公民館で約50名の地区民の参加のもと防災訓練を行いました。消防署員による災害時の避難の仕方の話や、自主防災に関するDVD観賞をしました。庭では消火器の使い方を実施訓練しました。さらに、希望者は、消火器の詰め替えもしました。



(環境安全部)

4つの成人講座が盛会裏に終了

9月2日は、陶芸教室でした。希望された20数名の講座生は、それぞれの好みにあわせた陶器作りに熱心に取り組みました。

できあがった作品は、11月の文化祭に出品されるそうです。



(生涯学習部)

はじめてのお母さん塾

夏休み中の8月17日、夏休みの課題に苦労している子どもたちのための塾を開きました。希望した15名は、部屋で習字を書いたり、外へ校区の歴史探訪に出かけたりしました。お母さんの特技を生かした「地域の子どもをみんなで育てよう」との第1歩が始まりました。

(青少年育成部)



郷土料理を親子で体験しました



9月2日、錦江小学校の家庭科室で、18組の親子を招いて郷土料理を作りました。教えてくださった

た食生活改善推進委員会の指導を受け、にぎやかに調理をしました。特に「いこもち」がおいしかったと子どもたちが喜んでいました。

(青少年育成部)

さちかぜの夏祭りに参加しました

7月23日、社会福祉法人さちかぜの夏祭りに、協議会も「スポーツ吹矢」のブースを設けて参加しました。30人ぐらいの子どもたちが楽しんでくれました。



なお、誰でもが体力つくりに参加できるよう公民館に「ペタンク」の道具もそろえ、貸し出しています。

(健康福祉部)

錦江湾をきれいにしました

7月1日、10月1日の2回、姶良市が呼びかけたクリーンアップ作戦にコミュニティ協議会も参加しました。流れついでゴミ、捨てられたごみが散乱していました。約1時間で清掃は終わりました。



毎回、多くの校区民が協力してくださりありがとうございます。おかげさまで別府川河口がきれいになりました。(環境安全部)

11月11日・12日 錦江校区文化祭を開催します。校区公民館に多くの作品を展示しますので、多くの方々の参観をお願いします。

(生涯学習部)

11月5日(日) 9:00

加治木体育館で校区ミニバレー大会を開催します。

(健康福祉部)

11月7日(火)午前中、錦江小学校でふれあい給食会を行います。昔の遊び、グラウンドゴルフもします。

(青少年育成部)

錦江校区コミュニティ協議会へのお問い合わせは、 Tel 73-6351 (月・水・金)

発行日 平成29年10月25日 発行責任者 加治屋昭弘